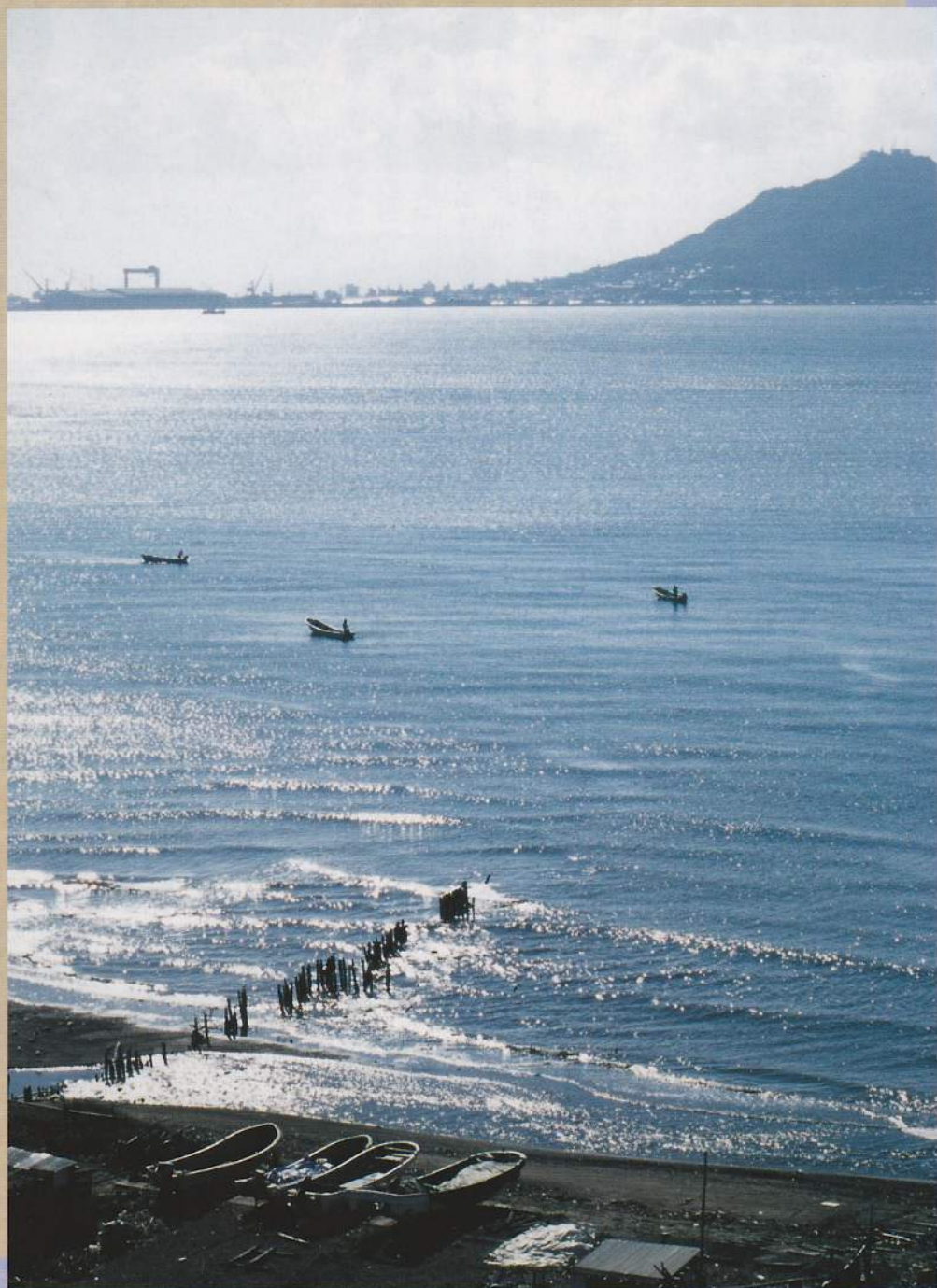


磯の香



会長挨拶

輝く上磯を築くには

東京上磯会会長 相馬 正樹



今年の六月の下旬に懸案の仕事と新しい研究の打ち合わせとを兼ねて、東ヨーロッパのブルガリアとロシアを訪ねた。これらの国から日本へ留学した学生の同窓生の懇親会への出席も仕事の一つであった。その席上で私の隣にいたソフィア大学のイワン・ラルフ総長に

「ソフィア大学にも卒業生たちの同窓会という組織がありますか」と聞いてみた。
「いや、そんな組織はないが、個人的に親しい仲間たちは集まることはありますよ」という。

「それでは、首都ソフィア在住の人達で自分の出身地のふるさと会のような集まりを聞いたことはありませんか」

「いや、そんな会は聞いたことはありません。われわれは、現在住んでいる所を住み良くする努力を重ねて、ここが一番すきになりました。だからここが私たちのふるさとなのです」

この返事を聞いてわたしは何とも愚かなことを聞いたものだと後悔した。狩猟民族のように転々と移動する生活をしている民

族にとつては、われわれのようなふるさと意識は持ち合わせていないのが当然なのだろうから。農耕民族には先祖伝来の田畑があり、その土地がふるさとなのである。かくして世界にも希なる愛郷精神が生まれ、生涯強い望郷の念をもち続けることになる。しかし、ふるさと会は単に孤独をまぎらわすための群れ作りに終わり、他との交流や協力による新しい環境作りなどには関心がないのが、日本人の群れ作りの大きな欠陥である。年に一回昔馴染と会って酒を飲み交すだけの会では侘しい限りである。

「ローマの人たちは、ローマが偉大だったからローマを愛したのではない。ローマ人が愛したからローマが偉大になったのだ」

という言葉がイタリヤ人が残している。通勤に便利だからとか、町民税が安いからと言うことで引越してきたとしても、住みついたからにはこの町を素敵な生活の場としてつくりあげて、心から愛せる町にして欲しいと思う。

在京の上磯会のみなさんは、現在は住んでいないけれども、郷愁と言う根強い愛郷精神で結ばれており、上磯を愛することにかけては現町民の皆さんに優るとも劣らないものがあります。年を追って発展している会社や町をみると、本当に自分の企業を、町を良くしようと思っている人が大勢いるときであることが見えてくる。

二十一世紀への歴史の流れは日毎に激流に向かっていくときに当たって、東京上磯会のみなさんは、単にふるさとに向けて応援歌を送るだけではなく、愛するふるさとのために何ができるのかを積極的に考え、現町民の皆さんと共に田園工業都市上磯の発展の方策を模索する努力を傾けるべきではないだろうか。

後世「上磯人が愛したから、上磯町が偉大になったのだ」と言われるためにも。

町長挨拶

上磯を誇りに……

上磯町長 海老沢 順三

東京上磯会会報の発刊にあたり、一言お祝いを申し上げます。現在、町の人口は、二二六、〇〇〇人を越え、学校給食共同調理場の改築や下水道整備、茂辺地の集落環境整備などの生活基盤の推進、さらには、昨年、ご紹介しました総合文化センター「かなでくる」は、おかげさまをもちましてオープンから一年にして入場者が一五万人を越え、たくさんの方々からご利用いただいているなど、町の事業は順調に進展させることができました。

今年、例年とはほど遠い曇りがちな日が多く、夏を実感できないまま八月半ばを迎えましたが、第十一回目の上磯町夏まつりのにぎやかで趣向を凝らした山車行列や華やかな浴衣姿での踊り



行列などにより、参加した一、六〇〇人を越える方々はもちろんのこと、沿道で声援していただいた方々も十分に楽しまれ、夏らしさを満喫された訳ですが、皆様も忙しい合間を縫ってこ

の時期に帰省されましたら、是非、この中に加わり、ふるさとの新しい面を再発見していただきたいと存じます。

また、上磯町の特産品といえば、まず第一にほっき貝を思い出されるでしょうが、町で生産された、「ほのか224」という米でつくられた地酒「陣屋桜」、完熟トマト「桃太郎」でつくられたトマトジュース、さらにはイチゴワインなどの新しい特産品が生産者や地域の方々アイディアによって次から次へと生まれ、地域の活性化に結びつき、生き生きと活力あるまちづくりが展開されています。

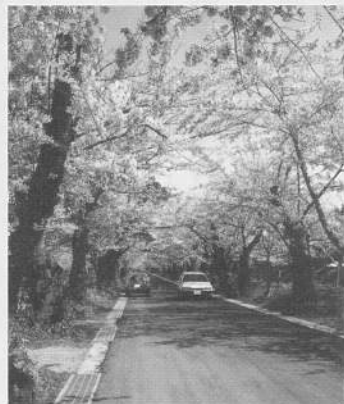
一方、皆様が思い描いているふるさとのイメージは、おそらく海や山や川が幼い頃のままで、豊かな自然の姿が身近に感じることのできるものであろうと存じます。

遠く離れたふるさととは、かけがえのないものであり、なつかしい思い出がたくさん残されていることでしょう。

このようなふるさとを大切にしていくことをしっかりと胸に刻みながら、緑にあふれ、自然とふれあう快適な環境づくりをめざし、新しい時代に適確に対応できる調和のとれたまちづくりを進めていきたいと存じております。

東京上磯会の皆様がふるさとを誇りに思えるよう、より一層努力しますので、今後とも東京から上磯への力強い応援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴会のみますますのご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。





「昔の町は小さく見える」

神奈川県川崎市在住 木野 整一

母の新盆で茂辺地に帰った。不思議だったのは、駅から家までの道のりがやけに短く感じられたことだ。いまにして思い返せば、十八才で上京するまではあれだけ遠く感じた道だったのに、帰省するたびに町が小さくなっていく感じがしていたのだ。どうしてなのか？

もちろん空間的にはそうだろう。あれは四歳くらいこのころだったろうか、友達とふたりで家から駅まで、アイスクャンディの棒を拾いながら歩いたことがあった。子どもというものは、バカでなにを考えているのかわからない（というより、私がバカでなにを考えているのかわからない子どもだったのだろうが……）存在だから、なにゆえそんなゴミ拾いのボランティアをしたのかは謎であるが、ともかく家と駅を往復し、数十本の収穫を得た充実感だけはいまでも鮮明に覚えている。家のまわりだけがほぼ全世界である四才の身には、駅までの旅はそれこそ辺境に赴く冒険にも等しかったのだ。町はそれほど大きかった。

た。

精神的には……いささか私の世界が広くなったこともあるのだろう。学校に行くのはあまり好きではなかったもので、駅と学校への道は遠かったが、成長するにつれ、駅は空間的な「辺境の地」ではなくなっていた。だが、帰京のとき……連絡船や空港への入口である駅は「行きたくないところ」への改札口でもあった。必然的に駅への道は遠く感じることにになり、降り立ったとき小さかった町は、再び昔の大きさを取り戻しているのだ。

吉本隆明の「佃渡り」という詩が好きだ。佃大橋で、父と娘が景色を見ながら語るのだが、こんな一説がある。

「これから先は娘に言えぬ。昔の町は小さく見える」。

娘もおらず、いまだに「ふるさと離れ」のできない私は、帰省して帰京するたびに胸の中でこういうに違いない。

「これから先はだれにもいえぬ。昔の町は……」

故郷を思う 人、風景

東京都新宿区在住 浅部 敏彦

我が故郷「上磯」、海があり山があり、そして町の中を幾つかの川が流れ、自然豊かな町、その故郷から旅立ちをして今も脳裏に焼き付く数々の思い出がある。その中でも特に夏の季節で小中学生の頃、毎日、海（浜）に行つて、ヤスヤ、素足で、ほつき貝を



取って浜で焼いて食べたあの味や、畑から取り立てのトマトに塩を付け、キュウリには味噌を付けたり、又、トーモロコシや蟹の茹でたての味や、朝早く売りに来るイカを刺身で食べたあの味は忘れられない。遊びでは、広場で三角ベースや町内対抗の野球大会等、又高校時代は、お祭で相撲を取り、町内の神社や、大野、七飯、亀田町迄先輩や友人と遠征した夏の日々でした。そして小中学校の行事だった清川陣屋への遠足、友人と行った釜の仙峡、冬はスケートや坊主山でのスキー等、一年中良く遊んで、育った町。都会とは違う人情味豊かな人間関係。そんなすべてを持ち合わせた思い出深い故郷です。

高校野球を見ながら古里を想う

埼玉県所沢市在住（谷小・昭二八年卒）

佐々木 紀昭

今年の甲子園では、例年に無く各試合とも熱戦が繰り広げられ、高校野球ファンに数々の感動を与え、神奈川県代表の横浜高校が、まさしくドラマでも見ているような、劇的な勝利で優勝した。この大会に出場した高校の中で、私の興味を引いたのは、西埼玉代表の滑川高校だ。

この高校は、人口僅か一万二千人余りの小さな町、滑川町にある唯一の県立高校で、しかも初陣である。それが強豪を相手に第三回戦まで駒を進めるといふ快進撃であった。彼らの試合をテレビで見ながら、ふと、我が古里、上磯町に想いを馳せたと残念ながら、上磯高校は七月二日に第二回戦で恵山高校

に二対九で敗戦していることが分かった。いつの日にか、出来れば、私が生きている間に、上磯高校野球部員の勇姿を甲子園で観てみたいものだと思望しているが、事はそんなに簡単ではないようだ。

最近の甲子園出場校の大半は、私立高校であり、中には、優秀な監督を招聘し、全国から有能な選手を集め、自前の専用練習場に最新のトレーニング器材を配し、驚いたことに専任のトレーナーまで付いていて、全くプロ野球顔負けの万全な設備を有している学校も存在する。

古い考え方かもしれないが、クラブ活動の一環としての素朴な野球部を、私はやはり好きだ。部長と監督は、その学校の先生であり、部を出来るだけ生徒の自主運営に任せ、健全な精神と体力を養って行く。こういう環境の中から、上磯高校が甲子園出場を果たしてくれることを期待している。これは遠い夢かも知れない。しかし、どこの高校にも負けないチームワークを育て、基本に忠実なプレーが出来れば、いつか必ず甲子園に出場できると確信する。

また、出場となれば、町と町民に、別の問題が出てくる。参加費用だ。前述の滑川町の場合、寄付金などを含めて約九千二百万円を集め、それを第二回戦までに使い果たし、予想もしなかった第三回戦進出により、チーム滞在費用や町民の応援費用の捻出に、町長が大変ご苦労をされたとか。

上磯高校野球部員の諸君！一日も早く、町長と町民に、この苦労をさせることを期待する。

終わりに、上磯中学校で私も野球部の一員だったが、同期で甲子園に出場した木村君や菅原君は健在であろうか。彼らの甲子園出場は、私の古里自慢話のひとつである。

「随想」 田舎の母を想う

東京都港区在住 宮崎 紀夫

私の母は八十一歳である。父は三年前に八十三歳で他界している。

私が社会人になって約四十年。この間の転勤回数二十回。一度も両親と共に生活したことなくし。俗に言う親不孝者の部類に入ること気になっている日ごろである。



その母が、今年のゴールデンウィークにひとりで上京してきた。「東京に来れるのもこれが最後かもしれない」との母の言葉。私の目から見れば、体力的にも精神的にもまだまだ大丈夫そうにみえるのだが。

「最後かもしれない」という言葉を気にしつつ精一杯の親孝行をしてみようと思ったものです。「行きたい所があれば、どこでも案内するよ」。返ってきた言葉は「まず、池上本門寺、足立区(母の実妹)、志木(次男)」と、ささやかな要望でした。

翌日、早朝から池上本門寺を案内し足立区に着いたのが夕方四時過ぎ。この間、相当な歩行距離を要したがかくしゃくたる歩きぶりに安堵の念を覚えたものです。足立区、志木市にそれぞれ二泊。最後の二日は拙宅泊まり。翌日、私が起床すると、母が遠慮がちに「もう一回、本門寺に案内してくれないか」との要望でした。延べ二回の案内に帰る際「今回は、本門寺に二回も連れて行ってもらった。最高の親孝行をしてもらった」の言葉に面映

ゆいような、照れくさいような気がしたものです。

私も五十の半ばを越えたが、これまで無病息災でこれたのも、丈夫に生んでくれ、そして育ててくれた両親のお陰だと感謝すると共に、無病息災でここまでこれたのが最大の親孝行かなと勝手に思っているこの頃です。

決して裕福でなかった生活の中、五人の子供を育ててくれた母…その生きざまを糧とし、生きていきたいと思いつつ、母の穏やかな将来を願わずにはいられない。

セメント・生コンクリート・骨材
土木・建築・水道施設・資材

- 三井海上火災保険(株)代理店
- 三益工業(株)代理店
- 旭イノボックス(株)代理店

株式会社 カマタ

〒049-0161 上磯郡上磯町飯生1丁目4-22

TEL (0138) 73-2825

FAX (0138) 73-7813

ふる里だより

上磯町かなでる協会・会長 吉元 正信

上磯町総合文化センター「かなでる」が昔の上磯中学校跡にできて一年が経ちます。役場とJRの線路を挟んで向かい合っている景色は随分変わりました。

変わったのは景色ばかりではありません。昨年は「由紀さおり・安田祥子コンサート」に始まり、「札幌交響楽団」「羽田健太郎」のピアノ演奏、歌謡曲では「山本譲二」、「柳家小三治の独演会」など、すばらしい音



「さまざまな催し物が開催されている上磯町総合文化センター・かなでるの大ホール。写真は第9回上磯町音楽祭」

響と照明で開催され、上磯町民の文化の程度もだいぶ変わりました。東京の人にはこの「喜び」解るかな…。

今年も日本フィルハーモニー交響楽団公演をは

じめ、多くの事業が企画されています。

東京上磯会の皆様、音楽・演劇・講演などをお安く提供してくださる信用ある企画会社の紹介、または友人・知人へ、東京から一時間半、函館空港から三十分位置する素晴らしいゴルフコース「アンビックス函館倶楽部上磯ゴルフコース」のある上磯町のPRをよろしく願います。

「かなでる」は素晴らしいホールですよ。

茂辺地在住 宗山 幸夫

東京上磯会の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年の春、初めて学校の近くにあるわが家の水田で、茂辺地小学校の児童七十四人が泥まみれになり田植え体験をしました。学校行事のひとつとして行なわれたこの田植え体験学習のきっかけは、子供たちに茂辺地の自然、地域でつくっているもの、また農業への理解と大切さを体験を通して知ってもらいたかったからです。

上磯町も水田面積の約半分、四百ヘクタールが減反となり、それかわって施設(ビニールハウス)栽培が盛んになりました。上磯地区ではトマト、キュウリ、花き、ネギなどが、また茂辺地地区ではイチゴ栽培が盛んで、上磯町のイチゴ生産量の半分は、茂辺地の母さんた



昨年12月に開かれた「いちごワイン・いちごの想い発表会」

ちが中心となつてつくられているのです。

去年からは付加価値を付けるため、また特産品のひとつとして「いちごの想い」という美味なワインもつくられました。このワインは上磯産米でつくる純米

酒「陣屋桜」、上磯産の生食トマトでつくる「桃太郎のトマトジュース」に継ぐ大ヒット商品となり、役場や商工会の方々のPRもあり、「本物はうまい！」との評価から、何しろ出荷するとすぐ完売してしまうほどの売れ行きようです。このように上磯町の農業も時代の流れに合わせ、次世代に繋ぐべく常に努力・振興しているのです。

私も東京上磯会の皆さんと同じように、ふるさとを愛し、大切にしたいを忘れぬよう日夜農業と子育てに励んでいます。一度ふるさとを愛する思いを子供たちの前で話してみてください。そして色々なことを教えてください。いつでもふるさとを待っています。

「季節雑感」

昨年サラリーマン生活三十五年を無事全う(?)して、故郷の茂辺地に鮭のごとく遡上してきました。

札幌での生活が長かったせいもあり、女房は都会の利便さを強調し、上磯町の永住にはなかなか首を縦にしません。そこで断固亭主関白ぶりを発揮した次第です。

上磯町は自然とふれあう快適な環境づくりに努めています。上磯町運動公園をはじめ、上磯ダム公園、木もれ陽の森、湯の沢水辺公園、函館教育体験の森、盤の沢等々数多くの「緑」と「公園」があります。人間の目には緑色が最も優しいようです。いろんなことに疲れた目を癒してくれます。

「衣食足りて礼節を知る」とよく言われますが、昨今の事件・ニュースは目を覆うものばかりです。昔の「修身」、今で言えば「道徳」教育の



「大勢のキャンプでにぎわう湯の沢水道公園オートキャンプ場」

必要性が痛感されます。家庭でのしつけ教育もさることながら、暇を見つけて家族・知人・友人と出かけてみてはいかがでしょうか。何ものにも勝る教育だと思えます。人間は環境に支配される動物だと言われますが、自然の素晴らしさがきつと身体にしみ込んできます。自然は裏切りません。裏切るのは人間の方です。雑感までに…。

石別町内会・顧問 上田 健次

東京上磯会の皆様お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

今年の道南は涼しい夏でしたが、晴れた日には浜いっぱいに昆布が干され、石別らしい活気を見せました。皆様には懐かしい風景ではないでしょうか。

「漁火太鼓」お聞きになった方もおありかと思いますが、地域に根付いた文化として盛んになり、各地の行事で活躍しております。今では小・中学生から保育園児まで、元氣いっぱい練習に励んでいます。

昨年から小・中学校、保育園と町内会合同で、「ふれあい大運動会」が行なわれています。今年は町長さんも競技に参加されるなど、とても盛会でした。もちろん太鼓も元気で可愛い撥捌きを見せてくれました。



日本観光旅館連盟会員

ホテル 海王館

函館 スパビーチ

無料大駐車場完備

函館・七重浜8-4 TEL 0138-49-4411 FAX 0138-49-2288

札幌案内所：札幌市中央区北5条西19丁目26-11 コーワビル1F TEL 011-631-0351



「さけまつり」で撥擧ぎを披露する漁火太鼓の子どもたち

この夏休みに
は、小学校のグ
ラウンドを立派
に整備してい
た、子供たち
も大喜びで駆け
回っているよう
です。

は、いま全校で三十人程の生徒が伸び伸びと育っています。バドミントンは中体連渡島大会で、函館代表の強豪チームをくだして男子団体が初優勝し、全道大会ではベスト8の成績をおさめました。小さな学校の快挙はきつと伝統ですね。

石別の話をほんの少し書きました。上磯は環境のよいところですが、皆様の故郷としての誇りを持ち、いつまでも住みよい「まち」でありますよう私も心から願っています。皆様のご健勝、ご活躍を祈っております。

上磯八幡宮 小島 正典

ふるさとのまつり雑感

『ふるさとは、遠きにおいて思うもの』とは、よく言うことばですが、私のように、ここに生れ育ちここをはなれたことのない

者にはあまりピンときませんが、生活の場を遠くの地におもちのみなさん方には、やはり実感として、時には、しみじみと思われないのではないのでしょうか。ふるさとといえはやはり『まつり』が思い出されるでしょう。本来のまつりは産土（うぶすな）さんのまつり、つまり矢不未天満宮、有川大神宮、そして八幡宮のまつりのほか各部落の神社のまつりでしょうが、今ではかみいそ夏まつりなどの催しも盛大に行なわれるようになりました。これも時代の流れでしょうか。又みなさんは清川にある戸切地陣屋跡をご存知かと思いますが、今ではすっかり整備され、すばらしい景観を示しております。中には北側の隅にお稲荷さんもまつられています。そこで思うのですが、春の桜の時に、この稲荷さんのまつりとして「桜まつり」を行なうてはいかがかと思えます。松前神楽、上磯奴、みこし、ちご行列、天満ばやしなどが桜のトンネルを練り歩き、広場で、イベントを行なう。完成した国の文化財の戸切地陣屋の一つの活用方法では？又地域活性化の一つになるのでは？と私見として心ひそかに思っています。

ともかくにもみなさま方のご健勝を遠くの地からお祈り申し上げ、つたない私の雑感とします。

みなさまのくらしを応援します。



JA貯金・ローン

JA共済

上磯町農業共同組合

- | | | | | |
|-----------|--------------|---------|-----------|-----|
| 上磯町農業（協組） | ☎ 73-2121（代） | 共同選別所 | ☎ 73-5367 | 中野通 |
| | 飯生1-6-8 | 野菜集荷所 | ☎ 73-5792 | 中野通 |
| | FAX 73-6681 | ライスセンター | ☎ 73-6536 | 中野通 |
| 営農部直通 | ☎ 73-6346 | 給油所 | ☎ 73-6744 | 中野通 |
| | 飯生1-9-14 | | | |
| 七重浜支店 | ☎ 49-2558 | | | |
| | 七重浜4-38-5 | | | |

文芸交流

アルミの空き缶でなんでも作ろう

横須賀在住 相馬 滋

清涼飲料や缶ビールの約六〇％はアルミ缶を使用しています。しかし日本ではその原料のボーキサイトが採れません。そのためアルミの原材料はすべて輸入に頼らざるを得ません。このアルミ缶がきれいに化粧をして私たちの手元に届くまでには大変な時間と手間ひまがかかっているのです。なのに、これらのカンたちは私たちの手に渡り中身を飲み終えると不要になつて、ゴミとして邪魔物あつかいにされ捨てられてしまふ運命にあるのです。

わたしはふとした機会にこれらに手を加えてみたら考えて、初めにできたのが灰皿（小物



入れ)だったのです。「これは面白いし気の利いたアイデアだ」と大変好評を博したので、その後次々と風車・提灯・貯金箱・虫籠・一輪挿し・ゆで卵作り器、などを手掛け、いまでは私の手によって再生されたものが六〇〇個にもなります。好きなビールをビンからカンに代え「飲めば飲むほど腕上がる？」このことがビール会社の知るところとなり、各所で開催されるアルミ缶の再利用の講習会に招かれて指導することになり、土日は多忙を極める羽目になってしまいました。先ごろ社用で米国出張の際も、サンフランシスコの日米会でアルミ缶の工作の講師をつとめて、大きな関心をよび大変に好評でした。この時の作品は今サンフランシスコの日本町にあるペーパーツリーのショーウィンドウに展示されています。

この会報ではこれらの缶に新しい生命を吹き込み、再出発させる簡単なリサイクル作品の作り方の手順を

図解・説明します。ぜひ一度挑戦してみてください。「ちょっと待て、潰す捨てるは、まだ早い」

アキカンリサイクル小物入れをつくらう!

① 空きカンにメジャーを巻きつけてぐるりと一周ししきをつけま

② カンの縁が重なりあっている線を探します。縁の凹みにうしろと縁のようになっている部分があります。

③ 線をスタートに1.5cmおきにしきをつけま(上下ともに)出来あがりにはまをつけましるは正確に!

④ 上下のしきを結びま

⑤ カンの上部を切りま

⑥ 上部のラインにそつてカンをカッ

⑦ たてのラインに沿つてカッ

⑧ すべての八手を90度折りま

STEP 1 八手を折りま

STEP 2 同じように2枚目を重ねて折りま(2枚目からはきつかり折りま)

STEP 3 最後の一枚を最後の折り目の甲にほめてお

出来あがりです!

1998.9.10 藤. M.H

珈琲・コーヒー・COFFEE

日野市在住 小田島二郎



(ガリ・ガリ・コリコリ)
毎朝七時頃になると我が家の居間で聞く音です。

そうです、それは私がコーヒー豆を摺る(カリタ)という名の道具から出る音です。

我が家でこの音を聞くようになってもう何十年になるだろう。

私は朝、目ざめると何をおいても先づコーヒーを煎れて飲む、永い間の習慣である。

粒の大きさ、ブレンドのしかた、コーヒーは大変デリケートな飲みものであり、チョットしたサジ加減でその味も変化する、これがまた楽しみでもある。

出勤前の小一時間は私たち老夫婦にとっても対話の大切な時間でもある。

毎日、「今朝のコーヒーは美味しい」ということから、それぞれが思い出したことを話し合うようになっていく。昔の話からこれからのこと、子供や孫たちのことなどなど、時間はあつという間にたつてしまう。そしてまた四季折り折りに合う、揃えのカップを出して使うのも楽しいものです。

ここ五、六年前から女房手製のアイスクリームが供されるようになった、今は誰も邪魔する者の居ない静かな時間である。

私がコーヒーを嗜むようになってもう五十年以上にもなる。それはそれは遠い昔の話

です。ある先輩に連れられて行ったのが、函館の大門の近くに「白十字」という名の喫茶店であった。未だ戦争の初めの頃で、この店ではいつもクラシックの音楽を流しており、客のリクエストにも応じてくれた当時としては大変シヤレタ店であった。

店内はいつも静かな雰囲気だ。聞こえるのは音楽と、軽いコーヒーカップのふれ合う音だけ、客の大むねは目をつむり音楽を聴き入っているだけである。その時代はそんな場所であれば一般の人には音楽も聴けない状況であったのです。

それから何回か通っているうち私も少し馴れてきてから好きな曲をリクエスト(とくにシヨパンのピアノソナタ)して意気がつたものです。戦前の青春時代のヒトこまで。可愛いものでした。

そうです肝心なことを思い出しました。実はこの店のウェイトレスがまた美形ぞろい(そのように見えたかも)で記憶ではピンク色の少しフレアのついた短かめのドレスを着ていたようでした。これら女性たちのリップサービスの笑顔にときには胸を弾ませていたものです。

私をしてコーヒー党にしたのは本当はこれがキッカケだったのかも知れない。

それ以来、戦争の前後を除けば一日としてこれを口にしない日はない。

一番好きなのはキリマンジャロで他はいろいろな豆をブレンドしながら楽しんでるが、デリケートなこの粉末はなかなか自分の思うような味や香りを出してくれません。ときには

これだという味に出会うことがあります。そのときは満足感でいっぱいです。

このような味を私は「ほれた女の味」と称して悦に入っている次第なのです。

私は最近ではいつもブラックですが、これが本当のコーヒーの味であり香りであると思っております。

コーヒーの発祥地はエチオピアであることは一般に知られている、いまから約一〇〇〇年も前のことであるという。

この国にコーヒーが渡来したのは一七七〇年頃(長崎)である。そして一〇〇〇年後の明治

金婚十句

小田島北州

私ごとで恐れ入ります。

私どもは昨年金婚を迎えることができました。ふり返えれば五十年というのはやはり永い年月です。今、どう思うかと云われると、「よくもここまで来たもんだ」というのが実感です。

孫・子とともに内祝いをやりました。ともあれ、森羅万象に感謝です。

次の句は昨年中に作句した中から金婚に関わった十句を取り出してみました。

ご笑覧あれ。

金婚日 船旅にあり 初日かな

屠蘇汲むや 五十年の杯 輝きぬ

ともに老ゆ なにを云うてか 息白し

金婚や 終いにはバラの 白さかな

五十年 いま幸福か 日向水

金婚や 明日咲くつぼみ 朝顔の

金婚や 秋の西日を 如何にせん

五十年 重ねし生涯 鳥渡る

とも白髪 満月のぞく 窓に寄る

五十年 葛巻くごとく 動きなし

二十二年(一八八八年)には東京下谷の西黒門町(いまの上野松坂屋付近に「可否茶館」という名の第一号店がオープンしたとしている。

当時の値段表に「カヒー一碗代、価金壹錢五厘」また、「同牛乳入・一碗代、価金貳錢」とあったそうです。これが高いのか安いのか判らないが、当時のそば一杯が八厘であることはコーヒー一杯はそば二杯分であつたことになる。ではここでコーヒーの楽しみ方についてひと言。大変デリケートであるので、チヨットした心づかいで味が変わりやすいので豆や器具の選び方、粉の量、湯の量と温度、そしていうまでもなくカップを温めることも大切なポイントとし一般的に知られている。

そして一杯のコーヒーをまずブラックで香りを次にシユガー(少なめ)を入れてバランスのとれた甘味を楽しみ、そのあとミルクを入れてまろやかさを完成させて味を楽しむ、一杯を三度楽しむことが上手な味わい方であるというのである。心に残る風味こそ最高のコーヒーであるということです。

いまコーヒー党の人口は大変な勢いで増えている。これからは単に飲むコーヒーから楽しむコーヒーへ趣きを変えるのも面白いかも知れないと思います。

新緑を通してふりそそぐ陽光を受けながらペランダで喫む今朝のコーヒーは一段の風味である。

◎コーヒーの香りにゆれる

若葉かな



「青雲の志」を抱いて…

逗子市在住 相馬 正樹

「青雲の志」という言葉はもう死語になったかも知れないが、広辞苑では「立身出世をしようとする功名心」とある。出世しようなどとは思わないが今よりは清々とした生活が待っているかも知れないとふるさとを後にしたのは、アジアの風雲急をつけるさなかの昭和十五年の春であつた。

金がない者が学校に入る自由のなかつた時代であつたが、その抜け道をくぐりぬけて晴れて花の東京に出てきた。大野村の電灯もないドン百姓の生活から一転して東京の生活は、まるで天国の楽園に遊ぶ思いがした。エレベーターが珍しくてデパートに行ったり、夜遅くまで賑わう夜店を見て回るのが楽しみであつた。

白黒の映画ではあつたが「望郷」や「舞踏会の手帖」など当時の名画を見て感動し、カルチャーショックをうけた。当時の学生生活は、電車に乗って神田まで出て、映画を見てカレライスを食べて五〇銭でお釣が来た時代だつたから、気楽なものだつた。

初めての下宿が菓嶋で、中学の同級生と同居であつた。食事付きであつたから食事のときは婆さんが付いている。最初の朝飯に出た生卵子を御飯にかけたら、全部茶碗の外に流れ出してしまった。

「だめですよ、気をつけなきゃ」といって婆さんが怖い顔をして叱りながら

食卓をふいてくれた。それが原因で生卵子恐怖症になり、その後一切口にしないことにして今日に至っている。

下宿が決まって落ち着いてから、同宿の友に「これからよろしくお願いします、といって挨拶をしてこい。シュークリームをもつていけば良い。駅前の商店街にいけばあるから」といわれたので、早速それを買いに下宿をでたが、実はそれまでシュークリームなどというものは見たことも聞いたこともなかつた。それは多分お菓子だらうからお菓子屋を探した。ポット出の田舎者のせいで口が重く、店に入っている話すのが億劫で、できれば買う物を指差して個数を言うだけですませたいのである。やつと商店街の端の方に、入り口のガラス戸に「シュークリームあります」と書いてある洋菓子屋を見つけた。しめたと思つて勇躍店に入つて生れて初めて憧れのシュークリームと対面した。しかし、一個一〇銭とは高い。今まで函館で食べた「おやき」は一〇銭で一個も買えたのに。

柔らかないようだから大事に持ち帰り、下宿のじいさんばあさんに挨拶をして初めて戴いたシュークリームの味は、まさにこの世に「こんな美味しいものがあつたのか」とショックをうけたことを思い出す。

あれからもう六〇年近くにもなるが、未だにシュークリームを食べるたびに、あのときのシュークリームショックが蘇ってくる。それにしても、あの時の青雲の志はどこへ飛んで行つたものやら。

上磯いま、むかし

江戸川区在住 山下 勇吉

余り古くからの事は分かりませんが、子供の頃の記憶に「有川」とか「三谷」「お手作」「御用畑」等々称した地区が有りましたが、今では中央、谷好、三好、押上等の地名に変わって居ります。特に中央は旧本町会所町、川原町等です。又七重浜から東浜町迄の海側のハマナスの咲いていた砂丘は無く家並が続き昔の面影はありません。国鉄青函連絡船で海峽を越え十数時間も汽車に揺られて上京したい、わゆる「あゝ、上野駅」の時代から、今では羽田から函館空港まで一時間ちよつとで往来出来る。今日迄に幾多の「上磯人」が本州各地へと旅だつて来た事でしょう。又首都圏関東甲信越にどれ程の「上磯人」が居るのだろうか。

夏休みで帰省した時に上磯町長や助役、総務部の方々や、町民窓口課、議会事務局の方々、更に農協の組合長や商工会長、建設協会等を訪問して多数の先輩、友人等にお会いする事が出来ました。

来年の「ふる里」訪問計画を語り、皆様の歓迎するとの意を頂戴し、町並、建物、学校や施設が変わっても「上磯人」の人情の厚さが変わってない事を心強く感じて居ります。



上磯俳壇

終戦忌

中村 古道

流灯のたゆたう岸を母去らず
秋灯下年輪に届かぬ化粧して
終列車発たせて虫に戻す闇

秋めく

中村 寂水

新秋に一人つましく旅に立つ

秋初め

数本 春圃

逝く夏や老には寂しい雲の様

夏霧

濱野 芙蓉

空蟬や余りある世を朝の海

雲の峰

中山 晩水

トンネルを額に納めて雲の峰

新涼

中村 みつ

新涼や検診こともなき安堵

秋草

須藤 富美

さびしげな人想はるる水引草

炎昼

三好 喜子

病棟を出て炎昼の花電車

初秋

佐々木 香雪

口紅さして初秋の眠りさらと捨て

残暑

中村 素芳

ぬかみそに自作の秋を埋める母

手花火

遠藤 村風子

一期かも知れぬ盆会の人に会う

風鈴

稲岡 月舟

無人駅一人降ろして霧の中

帰省

加賀谷 房子

初秋や陣屋遺跡に夕せまる

花火

近江 天風

星の精舞ふとうれしき蛍かな

秋風

飯田 きわ

サルビアの炎咲き出て一生秋

【おわび】

ご投句の中から編集の都合で勝手に選句させていただきましましたのでご了承願います。今後ともご支援を願います。編集委員会

第3回総会 出席者一覧

上磯小学校	谷川小学校	石別小学校	茂辺地小学校	浜分小学校
会沢 等 関谷 幸子	石井 郁子	岩沢 絢子	池田 雅樹	藤田 幸
浅部 敏彦 相馬 正樹	木村 修二	岩沢 俊治	池田 豊	服部 たか
新井 寿 橘 君子	黒滝 裕司	佐々木定信	熊谷 和子	小暮 英子
新井 実 多久 キヨ	渋谷 義彦	里村 章	加藤 和子	嵐 良司
池田 正毅 田中 隆	高橋 照美	染木 トシ	木野 整一	
板谷 勲 塚本 睦子	高山 義広	高橋 昌一	石橋 一利	峯朗小学校
井村 司 服部 たか	西方 幸子	高橋 昌次	北林志津江	石山 君江
井上 豊 北条 譲	長谷山隆嗣	高橋 宏和	桜井八重子	甲山 光孝
井上 稔 平野富久子	水越佐登子	高橋 昌三	佐野 誠一	新井 欣三
小田島二郎 福原 孝久	和田 通子	高根カツ子	佐藤 金也	葛西 光雄
石塚美耶子 宮崎 紀夫	山下 勇吉	高山 義弘	坂本東洋志	柏木新一郎
大場 綾子 宮崎 俊昭	滝代 英昭	中島利恵子	丹羽 双葉	武井満野子
小田島幸三 山田 はる		松田 明美	中田真樹子	そ の 他
上遠野憲子 山本 エツ			棟方美千子	山田 昭
後藤 良子				工藤 昭吾
篠崎 哲子	12	13	14	12
狷々谷律子	上磯町関係 町長 海老沢 順三 総務会長 高谷 寿峰 松前会副会長 粕谷 照子 窓口課長 土沢 克彦 上磯町商工会 会長 水上 務			
(参加者数) 上磯小 31	石別小 13	浜分小 4	その他 2	来賓 5
谷川小 12	茂辺地 14	峯朗小 6	総計 87 (82)	

第3回東京上磯会懇親会の一コマ



上磯建設協会

会 長 田島 義勝

副会長 川村 武

副会長 澤田峻太郎

外 役員一同

上磯郡上磯町久根別5丁目6番1号

☎ (0138) 73-8584 番

上磯町

海老沢医院

院 長 海老沢 健二

脳外科 上野 一義

上磯郡上磯町飯生3丁目1番36号

☎ (0138) 73-2135

☎ (0138) 73-2160 (脳外科)

Ⓜ 認定2×4パネル工場

Ⓜ 認定製材工場・Ⓜ 認定人工乾燥材工場

建材・住宅機器・住宅サッシ・内装工事

田島木材株式会社

本社工場・上磯町七重浜7丁目13番3号

電 話 (0138) 49-2121番 (代)

FAX (0138) 49-0461番

事務局からのお知らせ

☆ふるさと訪問旅行について

東京上磯会は年間の行事として、懇親会の他に観桜会や見学会を計画しております。来年度は左記のようなふるさと訪問旅行を計画しました。希望の有無を回答していただいた結果により実施の運びとし、計画が決定次第参加希望者に詳細を連絡いたします。希望者は葉書で事務局まで連絡して下さい。

旅行の概要

—記—

函館の市内観光に加えて上磯清川陣屋で花見をし、当別のトラピスト修道院を訪ねてから足を延ばして松前城の桜を鑑賞する。一日目の夜は上磯の皆さんとの懇親会に臨み旧交を暖める。第二日は一日フリータイムで自由行動とし、翌日夕方の便で羽田に帰る。

期 日 平成十一年五月八日(土) ～ 九日(日) (予定)

一日延ばして十日に帰ることもできます。

出 発 羽田空港 五月八日(土) JAL 午前便

復 路 函館空港 五月九日(日) JAL 夜便

宿 泊 利用ホテル 函館国際ホテル (朝食付き)

費 用 三五、〇〇〇円から四〇、〇〇〇円 (概算)

費用は参加人員により変わりますので、なるべく知人をお誘い合わせの上参加申込をしてください。上磯会の会員でなくても構いません。

☆事務局移転のお知らせ

東京上磯会の事務局を左記に移転しました。

〒一六九・〇〇七五 新宿区高田馬場四・四〇・二六 サンジヨルジュ一〇一

電話 〇三・三三六二・二二三二 高橋 昌三 方

上磯町商工会

会 長
副会長

水 上 務
金 沢 雄二
宮 崎 高志
他、役職員一同

上磯町飯生1丁目6番4号

TEL. 0138-73-2408

FAX. 0138-73-2474

事務局からの連絡とお願い

(一) 年会費の納入について

毎年納入していただいております本会の会費は、納入成績が三〇％に満たない状況で、会の運営に影響を及ぼしている現状にあります。事情御賢察の上、納入に関し格別の御協力をお願い申し上げます。

納入には同封の郵便振替え用紙を使用してください。手数料はかかりません。

(二) 会員名簿の発行について

本会が発足して三年を経過しましたので、新会員の掘り起こしと名簿の改訂をすべく準備を進めております。

つきましては、会費納入用の振替え用紙を利用して新しい会員の御紹介をお願い致します。

(三) 本会の幹事は出身小学校別に割り当ててありますので、新会員の紹介や住所の変更は別表の各出身小学校（*印）の幹事宛てにお願いします。峯朗、沖川その他は上磯小の幹事宛てにお願いします。

(四) 会員の現況 出身小学校別（現用名簿による）

・上磯小学校一三三名・浜分小学校三二名
・谷川三九名・茂辺地三四名・峯朗八名
・石別三二名・その他七名 総計二八四名
別表 幹事名簿を掲載

編集後記

東京上磯会が創られて三年、私はこの間ほどふる里のことを念頭におくようになった時間をもったことはかつてなかった。

郷関を出て五十年余、わき目もふらず一生懸命自分なりに生きてきた。過去のことには大方忘れふり向きもせず生きてきたような気がしている。

それが三年前頃になって、相馬さんの誘いに乗り、上磯会発足のお手伝いをしましたが、忘れていた上磯でのあれこれを出している。まこと今浦島の感じでなにかも変ってしまった。思い出の人も場所もその名残りすらうすくなってしまう淋しい。でもこれからは心に残っている思い出を大切にこれからの時間を上磯会に役立たせていただく、これがふる里へのご恩返しかも知れないと考えている。お力添えを願います。

編集部員・副会長 小田島 二郎



著書紹介

「野生動物からのメッセージ」

東京上磯会会長 相馬正樹著

内容

森の中や海中あるいは夜間など人間の目の届かないところで、野生動物はどんな行動をしているのかを調査する方法を開発してきた著者が、その研究の中で追い続けたクジラ、イルカ、オットセイ、ウミガメやサケ、ブリ、マダイなどの行動と不思議な習性などを平易に紹介したものである。

また、最近筆者が人工衛星を使って明らかにして世界の注目を集めたハクチョウ、ツル、ガンなどの渡り鳥の渡りの謎についても紹介している。

購読希望者は左記に請求して下さい。

〒一五二〇〇六三 渋谷区富ヶ谷 二一八四

東海大学出版会宛

FAX・〇三五四七八〇八七〇へ

定価 二、四〇〇円

著者の名を記入して申し込めば二、〇〇〇円で購入できます。

上磯会・役員一覧表

役職	氏名	〒	住所・勤務先	☎
会長	相馬 正樹	249-0052	逗子市沼間5-17-20 *上磯	0468-73-8849
副会長	小田島二郎	191-0052	日野市東豊田4-11-11 テクノアーツ研究所 *上磯	0425-84-3326 0423-62-9201
副会長	郷内 繁	157-0062	世田谷区南烏山2-31-31-211 *上磯	03-3305-0002
副会長	宮崎 紀夫	108-0071	港区白金台5-19-3-106 練馬東税務署 *上磯	03-3440-3417 03-3993-3111
事務局長	高橋 昌三	169-0075	新宿区高田馬場4-40-26 サンジョルジュ101 *石別	03-3362-2232
会計監査	相馬 滋	237-0066	横須賀市湘南鷹取2-1-7 都市美装(株) *上磯	0468-85-7256 03-3374-0008
会計	佐々木紀昭	359-0024	所沢市下安松796-7 *谷川	0429-45-5095
幹事	浅部 敏彦	165-0034	中野区大和町2-25-10 西部土地(株) *上磯	03-3336-5535 03-3360-1544
幹事	嵐 良司	365-0041	鴻巣市小松1-7-3 昭和コンクリート工業(株) *浜分	0485-42-7894 048-645-1751
幹事	石塚美耶子	135-0011	江東区扇橋3-2-3-202 新明和エンジニアリング(株) *上磯	03-5606-8754 03-3798-2382
幹事	加藤 和子	195-0061	町田市鶴川5-4-6-302 中外国島(株) *茂辺地	0427-35-5367 03-3669-4316
幹事	小松 二郎	166-0081	宮前4-26-23-103 日本製粉(株) *上磯	03-3335-6118 03-3350-2388
幹事	坂本東洋志	181-0001	三鷹市井の頭5-19-4 日本サルベージ(株) *茂辺地	0422-48-5463 03-5762-7171
幹事	佐藤 金也	233-0013	港南区丸山台2-3-21-03 (株)アイトー *茂辺地	045-848-2814 03-3472-3155
幹事	関谷 幸子	175-0082	板橋区高島平2-28-1-320 *上磯	03-3937-7576
幹事	高橋 宏和	177-0052	練馬区関町東1-4-6 *石別	03-3928-7518
幹事	長谷山隆嗣	243-0303	愛甲郡愛川町中津3561-9 *谷川	0462-85-5543
幹事	平野富久子	136-0074	江東区東砂7-10-17-306 *上磯	03-3646-9351
幹事	福原 和子	262-0064	花見川区長作町59-4 *上磯	043-250-2390
幹事	福原 孝久	274-0816	船橋市芝山3-30-15-502 岡田建設(株) *上磯	0474-65-8579 0474-65-8579
幹事	藤田 幸	168-0081	杉並区宮前3-1-2 *浜分	03-3334-5765
幹事	山下 勇吉	134-0083	江戸川区中葛西3-25-16-305 住友金属 *谷川	03-5674-8328 03-5232-9955
幹事	石井 郁子	179-0085	練馬区早宮4-44-1-306 *谷川	03-3992-0454

東京で語りましょう、かみいそを

東京上磯会 総会・懇親会 の御案内

初秋の候、いよいよご清祥のこととお慶び申し上げます。わが上磯会も、会員皆様の御協力によりまして益々発展を続けております。

さて今年の総会・懇親会は下記の通り開催しますので、例年の通り友人知己お誘い合わせの上ご出席を賜りたく御案内申し上げます。

記

日時 平成10年10月17日(土) 15時30分より 3時間

会場 日本閣 東中野店 電話：03-3367-2222
中野区東中野15-1

JR東中野駅下車、東口改札口を出て左降り口階段を出て目前

会費 8,000円 但し女性会員7,000円

年会費未納の方は2,000円を追加納入して下さい。

尚、ふるさと上磯からは町長はじめ職員ならびに町の有志数名の出席を予定しております。